3　付加音の符号化

⑴　音高音長符号

音高音長符号は、２バイトとし、第１バイトで音高、第２バイトで音長を指定する。

音高符号は、別記第２に示すとおりとする。

音長符号は、別記第３に示すとおりとし、単位時間（以下「Tu」という。）の整数倍として指定する。

⑵　音強修飾符号*

音強修飾符号は、音の強弱指定で指定する音強に対して修飾し、この符号に直続する音高音長符号、音長拡大符号及びタイ符号で指定する１音に対してのみ有効とする。

音強修飾符号集合は別記第４に示すとおりとする。

⑶　付加音制御符号

付加音制御符号集合は別記第５に示すとおりとする。

ア　制御符号のパラメタ

㋐　数値パラメタは、３／０から３／９までをそれぞれ０から９までの数値に対応させた10進数形式の符号とし、上位桁から順に各桁を並べる。

パラメタの区切り及び終端は３／11とする。

なお、数値の上位桁の０は省略できる。

㋑　選択パラメタは、３／０から３／９までをそれぞれ０から９までの数値に対応させた10進数形式の符号とし、パラメタの区切り及び終端は３／11とする。

イ　付加音の開始及び終了符号

㋐　付加音の開始は、２組のパラメタにより１つの付加音情報の開始及びTuの設定を示す。

第１組は１桁の選択パラメタにより０を指定し、第２組は数値パラメタによりTu（ms）の値を指定する。

㋑　付加音の終了は、１つの付加音情報の終了を示す。

ウ　パートの開始及び終了符号

㋐　メロディ部パート開始は、４桁の報選択パラメタにより指定された音色のメロディ部パートの開始を示す。選択パラメタの第３桁及び第４桁は、省略できるものとする。

メロディ部パートの音色指定の構成は、別記第６に示すとおりとする。

㋑　リズム部パート開始は、４桁の選択パラメタにより指定された音色のリズム部パートの開始を示す。選択パラメタの第３桁及び第４桁は、省略できるものとする。

リズム部パートの音色指定の構成は、別記第７に示すとおりとする。

㋒　制御部パート開始は、２桁の選択パラメタにより制御部パートの開始を示す。ステータス制御の場合は３／１、３／０とし、その他の場合は未定義とする。

㋓　パート終了は、メロディ部パート、リズム部パート及び制御部パートの終了を示す。

なお、制御部パートのパート終了の直後にはパラメタ終端を送出するものとする。

エ　繰返し及びジャンプ制御の符号

㋐　ラベルは、数値パラメタにより、ジャンプ先、繰返し開始又は分岐先となる点のラベル番号を指定する。

ラベル番号の有効範囲はそのパート内とし、同一パート内で同じ番号は使用しない。

ラベル番号の範囲は０～255とする。

付加音開始から付加音終了までに使用するすべてのパートのラベル番号の総和は、最大256とする。

㋑　ジャンプは、数値パラメタによりジャンプ先のラベル番号を指定し、ジャンプを行う。

ジャンプ先は、同一パート内とする。

㋒　リピートは、２組の数値パラメタにより、第１組は通過条件回数（以下「M」という。）を、第２組はジャンプする先のラベル番号を指定する。

M－１回指定のラベル番号へジャンプした後、M回目にジャンプせず通過し、通過後は初期状態となる。

ジャンプ先は同一パート内とする。

Mは、最大256とする。

㋓　ブランチは、２組の数値パラメタにより、第１組はMを第２組は分岐先ラベル番号を指定する。M－１回通過した後、M回目に指定ラベル番号へ分岐し、分岐後は初期状態となる。

ジャンプ先は同一パート内とする。

Mは、最大256とする。

㋔　付加音開始から付加音終了の間で使用するジャンプ、リピート及びブランチの制御符号の数は、それぞれ最大256とする。

ジャンプ、リピート又はブランチの制御により繰返しを行う符号列中に含まれるジャンプ、リピート又はブランチの個数の総和は最大64とする。

オ　音の強弱指定

音の強弱指定は、１桁又は２桁の選択パラメタにより音の強弱を示す。

音の強弱指定は、パート内で有効とする。

音の強弱指定と音の相対レベルの関係は、別記第８に示すとおりとする。

カ　音色の再指定

音色の再指定は、４桁の選択パラメタによりパート途中で音色の再指定する。選択パラメタの第３桁及び第４桁は、省略できるものとする。

パラメタの指定は、メロディ部パートは別記第６及びリズム部パートは別記第７に示すとおりとする。ただし、基本機能の場合は、メロディ部パートの指定のみとする。